

ともた談る

2024 年 3 月 19 日発行

本校「センター的役割」のまとめ

今年度は、本校児童生徒が利用する関係機関（事業所など）42 か所を訪問させていただきました。今後も、各関係機関と連携をしながら地域における特別支援教育のセンター的機能の発揮に努めていきます。以下に、今年度の「帯広養護学校のセンター的役割」を振り返ってみます。

1 巡回相談（年 1 回程度、本校からコーディネーターを派遣し、助言をします。）

(1) 実施園、校数（単位：園、校）

	幼保	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
パートナーティーチャー派遣事業	1	17	9	0	0	27
地域支援	0	0	0	0	0	0
専門家チーム	0	0	0	0	0	0
合計	1	17	9	0	0	27
教育支援委員会	帯広市 4 回 音更町 3 回 浦幌町 1 回					
特別支援児保育巡回指導	帯広市 4 回					

(2) 主な助言内容

- ア 保育園等～発達段階を考慮した気持ちの切り替えの方法、体幹の鍛え方、療育施設との連携などについて助言しました。
- イ 小学校～SST、授業に集中するための手立て、家庭支援などについて助言しました。
- ウ 中学校～不登校傾向の生徒に対するオンライン授業、認知行動療法、進路に向けた支援方法などについて助言しました。

(3) 傾向

十勝の大きな傾向として、以下の 2 点が考えられました。

- ア とても充実した実践が多く、課題は多いもののそれに前向きに取り組む先生方の姿勢が見られ、私たち自身が勉強になりました。
- イ 家庭、関係機関との連携に難しさを感じているケースがありました。特に、不登校の児童生徒については全国的に増加傾向のこともあり、具体的な手立てや関係機関とのつながりに悩まれている印象を受けました。

2 教育相談（就学、進学、高等部受検や転学に関わる相談、また、発達に関する相談などです。）

(1) 実施件数（のべ数、単位：件）

	就学前	小学生	中学生	高校生	合計
入学相談	26	11	44	0	81
発達相談	0	1	0	0	1
合計	26	12	44	0	82

(2) 相談内容

- ア 入学相談～本校小学部・中学部に新・転入学、高等部に入学を希望される人を対象とする「本校入学に関わる教育相談」では、本校の説明、児童生徒の様子把握、体験学習（高等部新入生・転入学希望のみ）を行っています。
- イ 発達相談～発達について気になる幼児から高校生までを対象に、対象者の様子を把握し、特別支援に関わる情報提供等を行っています。

(3) 本校の入学に関わる教育相談について

ア 小・中学校に在籍されている方は、学校からの依頼文と教育相談受付票が必要になります。

イ 本校の教育相談は、例年5月中旬から2月中旬の期間で行っています。年長、小6、中3は12月中旬まででお願いしております。例外はありますが、基本的にこの期間内に実施できますようご協力をお願いいたします。

※詳細は、本校ホームページをご覧ください。

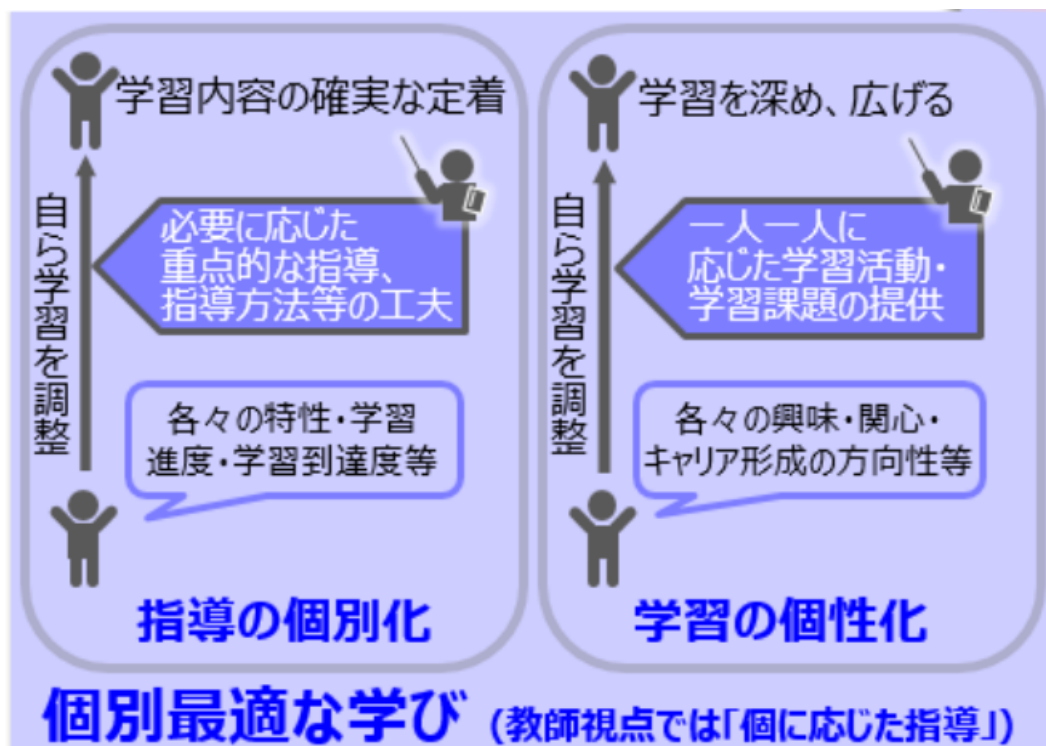
居住地校交流のまとめ

本校小・中学部在籍の児童生徒が、自分が住んでいる地域の公立学校と交流を行う「居住地校交流」です。今年度は、以下のように実施することができました。

交流校名		回数	内容
帯広市立	緑丘小学校	1回	ア 直接交流(訪問して交流) (ア) 通常学校で音楽や体育などの授業を一緒に受ける。 (イ) 特別支援学級の朝の会や自立活動、音楽や体育と一緒に参加する。 イ 間接交流(訪問しないでの交流) (ア) 手紙のやりとりをする。 (イ) 通信などのやりとりをする。
	稲田小学校	1回	
	帯広第二中学校	1回	
	西陵中学校	1回	
	帯広第五中学校	1回	
	翔陽中学校	2回	
音更町立	音更小学校	1回	
	共栄中学校	2回	
芽室町立	芽室中学校	1回	
幕別町立	札内北小学校	1回	

学びのユニバーサルデザイン Part.2

子どもたちを一人も取りこぼすことなく、それぞれの興味関心や発達の状態などを踏まえて資質・能力を育んでいく「個別最適な学び」の推進が現行の学習指導要領(小学校学習指導要領総則第1章第4)や「令和の日本型学校教育の構築に向けて」におけるキーワードとして挙げられています。



「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実(イメージ)より抜粋

https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/life/52220_127568_misc.pdf



情緒学級では自立活動でみんなでソーシャルスキルトレーニングを行っています。



改めて、特別支援学級における教育課程の編成の基本を見てみましょう。

(イ) 児童の障害の程度や学級の実態等を考慮の上、各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えたり、各教科を、**知的障がい者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替**
えたりするなどして、実態に応じた教育課程を編成すること。

国語を例にしてみると、以下のように整理されます。

3

特に低学年の児童や知的障がいが中度～重度の児童生徒にとっては、知的障がいの特別支援学校における各教科の内容を扱うことも視野に入れる必要があります。

また、自立活動では、個々の児童又は生徒が障害による学習上又は生活上の困難さを主体的に改善・克服することができるよう内容を選定します。自立活動の目標や内容はオーダーメイドであることが必須です。（目標に「個々の～」という文言がついているのは自立活動のみになります。）

前置きが長くなりましたが、個々の児童生徒の実態や学習状況を的確に評価・把握できていることがとても大事なことになります。そこで初めて、柔軟な教育課程の編成が可能になります。

本校においても、学習状況を小学部～高等部まで引継ぎながら、確実に積み重なるよう指導内容・目標を検討していくことに課題があり、教務部を中心に学習状況や実態把握のチェックリストを作成しました。

ここでは、知的障がいの国語科、算数科（数学科）、生活科及び自立活動にカテゴリが別れていて、それぞれの質問項目に○：できる、△：教師の支援が必要、空白：できない、まだ取り組んでいないと、簡単に学習状況や実態についてチェックしながら、目標や内容を検討することができます。

STEP2 言葉と対象の対応関係		STEP1 名詞や動詞、形容詞などの言葉の理解と活用		聞くこと・話すこと		読むこと		書くこと	
3～4語文の指示を聞いて応じることができる。		2語文の指示を聞いて、応じることができる。（立って、椅子をしまってください）		言葉を用いて自分の気持ちや要求を表現することができる。		昔話や童謡などの絵本を読み、好きな場面を答えたり、一部の言葉やフレーズを伝えたりすることができる。		始点と終点が分かり、注書きしたりすることができる。	
教師に続いて、身の回りの事や気持ちを表現することができる。		適切な挨拶をすることができる。		動詞（走る、投げるなど）や形容詞（きれい、高いなど）の語彙を増やすことができる。		昔話や童謡などの絵本を読み、一部の言葉やフレーズを言うなど言葉への関心を広げることができる。		適切な姿勢（足の位置や道具を用いることができる。	
絵本などの劇中の人物になりきり、言葉や動作で場面を表現することができる。		絵本などの文章から一部の平仮名を拾い読みすることができる。		いろいろな絵本や図鑑に興味を持ち、自ら読もうとすることができる。		いろいろな筆記用具を用いることができる。			
語句と事柄との結びつきの理解		絵本（文章）の読解の基礎		読み聞かせに親しむ					

Excelの様式になりますが、クリックのみで直観的に操作することができます。

年度末の評価や年度初めの実態把握において地域の先生方、子どもたちにとって有益になると考えているので、是非使ってみてください！そしてこうしたツールでつながりながら、これからも十勝の特別支援教育を一緒に盛り上げていけたら幸いです。

（文責：帯広養護学校教務部長 西山雄基）

今年度最終号となりました。下津、氏原で担当しました。1年間、ありがとうございました。